

日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査委託事業*の概要

山本隆司・鹿熊信一郎

本調査の詳細は、水産庁より平成9年度日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査委託事業報告書として印刷公表されるので、ここではその概要のみを記す。

1. 目的

北太平洋海域のマグロ類等の、漁獲データ・生物学的情報等の収集・解析を行い、北太平洋のマグロ類等の資源評価に必要な基礎資料を収集することを目的とする。

2. 調査の概要

(1) 1997年のクロマグロの漁況について

糸満新港への水揚げ尾数は、平成4年(4月9日～7月23日)が630尾、平成5年(4月11日～7月12日)が400尾、平成6年(4月6日～7月15日)が541尾、平成7年(4月27日～8月7日)が86尾、平成8年(4月25日～7月10日)が540尾、平成9年(4月24日～7月11日)が552尾となり、例年並みの水揚げとなった。

今年の盛漁期は、例年と同じく5月中旬から6月中旬であった。漁場は例年どうり5月下旬には沖縄島南方へ、6月から7月には沖縄島西方へと漁場が移っていった。

(2) 伝票集計

糸満新港、糸満、那覇地区、県漁連の各市場の水揚げ量を調査をした。糸満新港市場ではクロマグロのみを、他の市場では魚種・銘柄別(クロマグロ、キハダ、キメジ、キメジ小、シビ、メバチ、ダルマ小)の水揚げ量を調査した。糸満新港に水揚げされるクロマグロは全量把握したが、その他の市場に水揚げされるマグロ類の内、県内でセリにかけられた分のみ集計し、直接本土送りされた分については、漁協・漁連に伝票がないため、集計できなかった。

集計データは、日本エヌ・ユー・エス(株)に送付した。

(3) 魚体測定

1997年4月から7月に糸満新港に水揚げされたクロマグロの体長を測定した。全体の抽出率は65.0%であった。体長範囲は、174cm～260cm、体重範囲は、89Kg～367Kgであった。測定データは、日本エヌ・ユー・エス(株)に送付した。

(3) 生殖腺の標本採取

今年度は、552尾の中から214尾分について卵巣と精巣のサンプリングを行ない、遠洋水産研究所に送付した。抽出率は38.8%となった。552尾中の296尾について雌雄を調べたところ、雄145尾、雌151尾でほぼ1:1であった。

(4) まぐろ類の調査における問題点

糸満新港に水揚げされるクロマグロは一業者が本土送りをしており、この業者から水揚げ量を調べているが、泊港(那覇地区・県漁連)水揚げの直接本土送り分については、本土送り業者が多数あり、集計は困難である。

* 本調査は、水産庁からの委託調査である。